# 山間地域の活性化めざす

## 県が「振興ビジョン」策定へ

### ◆公明、衰退する伝統芸能など調査◆

### 市ら、県、議　現場の声生かす施策求める

**愛知県東栄町**

山あいの自治体に広がる過疎化の波が、地域の伝統行事にも影響を及ぼし始めた。愛知県東栄町では、高齢化と人口減により700年以上続いてきた国の重要無形民俗文化財「花祭」が、存続の危機に瀕(ひん)している。深刻な事態に対して、同県は公明党の強い主張を受けて、新年度から山村振興を強化する方針。同対策を推進してきた公明党の渡会克明、小島丈幸両県議、鈴木真澄・新城市議はこのほど、同町の花祭会館を訪ね、関係者から実情を聞くとともに、高齢化に歯止めがかからない過疎集落を視察した。

東栄町はJR豊橋駅から北東へ約60キロ。「奥三河」と呼ばれる、愛知県北東部の山間部に位置する人口約4300人の小さな町。面積の約90%は山林や原野で、標高700～1000メートルの山間地に点在する集落の高齢化が著しい。住民の大半が65歳以上となり、地域共同体としての機能を全く果たせなくなった小規模集落も珍しくない。

同町は鎌倉時代から地域に脈々と受け継がれてきた「花祭」の古里として知られる。この祭りは同町をはじめ、北設楽(したら)郡内17カ所に伝わる伝統芸能で、毎年11月から3月にかけ夜を徹し勇壮な舞いが繰り広げられる。しかし、少子高齢化で「花祭」を引き継ぐ後継者が不足。同町周辺では伝統芸能を続けていけなくなった集落も出始めた。

「もうあと何年かたてば伝統芸能の『花祭』は消滅する」――。昨年11月、鈴木市議に同町在住の亀井博人、衿子夫妻からショッキングな情報がもたらされた。鈴木市議は現地に急行し、同町内で公明党地域活性化推進本部が作成した過疎集落実態調査票をもとに課題や解決策を探った。その上で、渡会県議と連携を取り、県の早急な支援策を求めた。

過疎集落を調査する（右から）鈴木市議と小島、渡会の両県議

要望を受けた渡会県議は昨年12月定例議会で過疎集落実態調査の結果を踏まえ、地域の伝統芸能が消失しつつある現状や三河山間地域の衰退状況を報告。環境問題の観点からも「上流水源地域の振興は下流都市地域を含めた流域全体、さらには県全体にとって極めて重要な課題だ」として山村振興、小規模集落対策の必要性を強く訴えた。

これに対し県は新年度の組織再編で、本庁に副知事を本部長とする山村振興推進本部や山村振興室を設置し、現地にも事務所を置いて山村振興を強化する考えを表明。新年度予算案には、三河山間地域での交通基盤整備や産業振興、小規模集落対策などの方向性を示す「山村振興ビジョン」の策定費を計上した。

先ごろ、同町を訪れた渡会、小島両県議らは関係者に山村振興に向けた県の取り組みを報告し、「花祭」の現状を調査。応対した同町教育委員会教育課の伊藤浩也主事は「あと数年は『花祭』を存続させていける」としながらも、①厳格な世襲制だった鬼役の後継者が立たない②男子だけの祭りに女性も加えた③他の集落や親族の協力で担い手不足を補っている――などの厳しい状況を訴えた。

この後、一行は小規模集落の一つ、下田尾々地区を視察。同地区に住居を持つ亀井さんは「約20年間で11世帯から4世帯に減った。高齢化も著しく、住民の力だけでは集落の維持は難しい」と述べ、支援を求めた。

視察を踏まえ、渡会、小島両県議らは神田真秋知事に「現場感覚のある振興策が大事だ。山村振興に携わる職員は現地に出向き、生の声から政策を実行してもらいたい」と要望した。